

超密植桑園の年間条桑収穫法

農業研究センター 農産園芸研究所 蚕業部

担当者：西口 達郎

研究のねらい

桑枝横伏せ法により造成する超密植桑園に用いる桑品種は、発芽及び生育が早く晩秋期遅くまで伸長する一方、生育に伴う下部の落葉や冬期の先枯れが発生しやすい等の問題がある。また、桑の収穫に当たっては、桑の生育と蚕の飼育並びに簡易条桑収穫機に対応した適正な収穫方法の確立が必要である。

このため、超密植桑園に適する桑の管理方法及び収穫体系について検討を行った。

研究の成果

- 1 超密植栽培に用いる桑品種(系統)は、発芽・発根性に優れ枝条が細く、直立性の「みつみなみ」や「桑F₁系統」が適当である。
- 2 収穫時に地際から伐採すると、地上15~25cmの高さで伐採した時に比べて4~5日発芽が遅くなる。品種別では、「みつみなみ」は「桑F₁系統」より2日程度発芽が遅くその後の伸長も鈍い。
- 3 収穫時期は、春の場合は5月下旬、夏秋期は地際伐採後が70~75日、地上伐採後では60~70日が適期で、年間の収量が増加する。
- 4 桑の仕立は、春切(春発芽前地際伐採)及び夏切(春収穫後地際伐採)とし、収穫は春切では2回、夏切では3回行う。同一個体について1年ごとに春切と夏切を交互に行うことにより、2年に5回の収穫が可能である。
- 5 収穫法は、夏切の場合は春収穫後地際から伐採し、その後1回目は地上15cm、2回目は25cmから条桑収穫を行う。春切の場合は1回目を地上15cm、2回目を20cmから条桑収穫を行う。なお、二つの品種を組み合わせることにより、年間10回の飼育に対応した年間条桑収穫を行うことができる。
- 6 2年で5回収穫を行う場合、年平均収量は10a当たり葉量で「みつみなみ」が、2,700kg、「桑F₁系統」が2,600kgで、繭に換算すると180kgの単収が期待できる。
- 7 「みつみなみ」を翌春に収穫する場合は、8月中旬までに収穫し、10月中旬に再発枝を摘芯することにより先枯れを防止することができる。

普及上の留意点

「桑F₁系統」は、収穫後萎れ易いので注意する。

表 1 収穫時期別収穫法

収穫回数（回）		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	翌年
収穫時期（月/旬）		5/中	5/下	6/中	6/下	7/中	7/下	8/中	8/下	9/下	10/中	10回	
仕立法	夏切	25	25			15	15			25	25	6回	春切
	春切			15	15			20	20			4回	夏切

注 1) 数字は地上からの収穫位置（cm）で夏切は収穫後に春切は春発芽前に地際から株直しを行う。

2) 収穫機はクボタ RA30 - DK で刈取り速度は「前進 1」で行う。

表 2 桑品種別収壊体系と予想収量

（単付：kg/10a〔葉量〕）

飼育回数（回）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	年間
掃立時期（月/旬）	4/下	5/中	6/上	6/中	7/上	7/中	8/上	8/中	9/中	9/下	
桑 F ₁ 系統（夏切）	1,000				900				1,100		3,000
みつみなみ（夏切）		1,000				1,000				1,300	3,300
みつみなみ（春切）			900				1,200				2,100
桑 F ₁ 系統（春切）				1,100				1,100			2,200